

参考文献

- 青木伶子(1980)「格助詞」の項 『国語学大辞典』国語学会編 東京堂出版 145-146
- (1986)「『は』助詞は所謂『陳述』を支配するに非ず?」 『国語国文』第55巻
第3号 京都大学国文学会 1-17
- 東 弘子(1992)「感情形容詞述語文における感情主の人称制限——叙述の立場から」 『日
本語論究3 現代日本語の研究』和泉書院 45-68
- (1997)「日本語における人称とムードの一致」 『南山国文論集』第21号 7-25
- 荒 正子(1989)「形容詞の意味的なタイプ」 『ことばの科学』3 むぎ書房 147-162
- 石綿敏雄(1983)「結合価から見た日本文法」 『文法と意味I』 朝倉書店 81-134
- 石綿敏雄・荻野孝野(1983)「日本語用言の結合価」 『文法と意味I』付録 朝倉書店
226-272
- 井上和子(1973)『変形文法と日本語』(上)第2章補文構造 大修館書店 31-160
- (1976)『変形文法と日本語』(下)第4章基底の格 大修館書店 3-16
- 大江三郎(1975)『日英語の比較研究 主観性をめぐって』南雲堂
- 大曾美恵子(1983)「授動詞文と二名詞句」 『日本語教育』第50号 日本語教育学会
118-124
- 大塚高信・中島文雄監修(1982)『新英語学辞典』研究社
- 大森莊蔵(1963)「他人と言葉」 『人文科学科紀要』29号 東京大学(大森(1971)所収
18-41)
- (1969)「生命と意識」 『科学の基礎』東京大学出版会 248-259
- (1971)『言語・知覚・世界』岩波書店
- (1975)「痛みと私」 『心』昭和50年11月号 平凡社(大森(1976)所収 48-62)
- (1976)『物と心』東京大学出版会
- 沖森卓也(1985)「形容詞の成立」 『日本語学』第4巻第3号 明治書院 36-46
- 奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって——金田一的段階——」 『宮城教育大学国
語国文』第8号(奥田(1985a)所収 85-104)
- (1978)「アスペクトの研究をめぐって」 『教育国語』第53,54号 むぎ書房(奥
田(1985a)所収 105-143)
- (1985a)『ことばの研究・序説』むぎ書房
- (1985b)「文のさまざま(1)文のこと」 『教育国語』第80号 むぎ書房 41-49
- (1986)「文のさまざま(2)まぢのそみ文①」 『教育国語』第85号 むぎ書房
21-32
- (1996)「文のこと——その分類をめぐって」 『教育国語』第2期第22号 むぎ
書房 2-14
- 奥津敬一郎(1979)「日本語の授受動詞構文」 『人文学報』第132号 東京都立大学 1-27
- (1983)「授受表現の対照研究—日・朝・中・英の比較—」 『日本語学』第2巻
第4号 明治書院 22-30

参考文献

- (1984)「授受動詞構文の構造——日本語・中国語対照研究の試み——」『金田一春彦博士古希記念論文集』二 三省堂 65-88
- 小山敦子(1966)「『の』『が』『は』の使い分けについて——展成文法理論の日本語への適用」『國語學』第66集 国語学会
- 川端善明(1983)「文の構造と種類——形容詞文——」『日本語学』第2巻第5号 明治書院 128-134
- (1986)「格と格助詞とその組織」『論集日本語研究(一)現代編』明治書院 1-40
- 菊地康人(1993)「日本語教育のための基礎研究——言語学者の仕事と日本語教育家の仕事——」『東京大学留学生センター紀要』第3号 13-48
- 北原保雄(1991)「表現主体の主観と動作主の主観」『國語學』第165集 国語学会 15-25
- 金水 敏(1988)「日本語における心的空間と名詞句の指示について」『談話・意味・語用論』 科学研究費特定研究成果報告 15-40
- (1989)「代名詞と人称」『講座日本語と日本語教育』第4巻 明治書院 98-116
- (1990)「述語の意味層と叙述の立場」『女子大文学・国文篇』第41号 大阪女子大学 26-56
- (1991)「伝達の発話行為と日本語の文末形式」『神戸大学文学部紀要』第18号 23-41
- (1992)「場面と視点—受身文を中心に—」『日本語学』第11巻第9号 明治書院 12-19
- 金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」『國語學』第15集(金田一編(1976)所収 5-26)
- (1955)「日本語動詞のテンスとアスペクト」『名古屋大学文学部研究論集』X(金田一編(1976)所収 27-61)
- 編(1976)『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 草薙 裕(1977)「日本語形容表現の意味——情報提供という観点からの考察」『文芸・言語研究・言語篇』第2号 筑波大学文芸言語学系 89-110
- (1983)「テンス・アスペクトの文法と意味」『朝倉日本語新講座3文法と意味I』朝倉書店 166-208
- (1994a)『自然言語処理のための日本語文法の形式化』平成5年度科学研究費研究成果報告書
- (1994b)「日本語における非過去形のテンスとアスペクト」『森野宗明教授退官記念論集 言語・文学・国語教育』三省堂 119-133
- 工藤 浩(1985)「日本語文の時間表現」『言語生活』403 筑摩書房 48-56
- 工藤真由美(1986)「アスペクトについてのおぼえがき」『国文学解釈と鑑賞』51-1 至文堂 39-48
- (1987)「現代日本語のアスペクトについて」『教育国語』91 むぎ書房 2-21
- (1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 国広哲弥(1967)『構造的意味論——日英両語対照研究』三省堂

- 久野 暲(1973)『日本文法研究』大修館書店
 ————(1978)『談話の文法』大修館書店(特に第4章で、第2章視点129-282を参照)
 郡 博子(1993)「感情形容詞についての考察」『日本語・日本文化』第19号 大阪外国
 語大学日本語教育センター 25-39
 国立国語研究所(1964)『分類語彙表』秀英出版
 小針浩樹(1994)「文類型の中での形容詞文の位置づけについて」『国語学研究』第33巻
 東北大学文学部(53)-(61)
 小矢野哲夫(1985)「形容詞のとり格」『日本語学』第4巻第3号 明治書院 21-28
 近藤泰弘(1989)「ムード」『講座日本語と日本語教育第4巻』明治書院 226-246
 坂原 茂(1990)「役割、ガ・ハ、ウナギ文」『認知科学の発展 Vol.3』 講談社サイエンテ
 イフィック 29-66
 坂原茂・三藤博(1988)「メンタル・スペース理論と名詞句解釈のアルゴリズム」『談話・
 意味・語用論』 科学研究費特定研究成果報告 53-66
 佐久間鼎(1941)『日本語の特質』育英書院(くろしお出版復刊(1995))
 佐藤琢三(1998)「自動詞ナルと計算的推論」『国語学』192 国語学会 13-24
 柴谷方良(1978)『日本語の分析』第3章埋め込み構造(19-176)、第6章意味関係(269-332)
 大修館書店
 ————(1985)「主語プロトタイプ論」『日本語学』第4巻第10号 明治書院 4-16
 杉本和之(1996)「『思う』の統語論的、語彙的特徴」『中京国文学』第十五号 中京大学
 国文学会 (1)-(12)
 鈴木重幸(1957)「日本語の動詞のすがた(アスペクト)について」言語学研究会報告(金
 田一編(1976)所収63-81)
 ————(1972)『日本語文法・形態論』むぎ書房
 ————(1975)「主語論の問題点」『言語』第4巻第3号 212-219
 鈴木孝夫(1971)「言語における人称の概念について」『慶応義塾大学言語文化研究所紀
 要』第2号 141-156
 ————(1973)『ことばと文化』岩波新書
 砂川有里子(1986)『日本語文法セルフ・マスターシリーズ2 する・した・している』く
 ろしお出版
 たかきかずひこ(1997)「対立する形にみえる慣用句の意味(1)」『日本文学研究』第三十
 六号 大東文化大学日本文学会 196-178
 高橋太郎(1983)「スルともシタともいえるとき」『金田一春彦博士古稀記念論文集』三省
 堂(高橋(1994)所収166-187)
 ————(1984)「名詞述語文における主語と述語の意味的な関係」『日本語学』第3巻第
 12号 明治書院 18-39
 ————(1985)『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』秀英出版
 ————(1986)「形容詞のテンスについて」『日本語研究(一)現代編』明治書院(高橋

- (1994)所収 208-227)
- (1993)「アスペクトとテンス」『国文学解釈と鑑賞』58-1 至文堂 80-89
- (1994)『動詞の研究——動詞の動詞らしさの発展と消失』むぎ書房
- 田窪行則(1987)「ディスコース管理からみた日本語の談話構造」日本語文法談話会要旨
- 寺村秀夫(1973)「感情表現のシンタクス——『高次の文』による分析の一例」『言語』第2巻第2号 大修館書店 98-106
- (1979)「ムードの形式と意味(1)——概言的報道の表現——」『文芸言語研究』第4号 筑波大学文芸・言語学系 67-89
- (1980)「ムードの形式と意味(2)——事態説明の表現——」『文芸言語研究』第5号 筑波大学文芸・言語学系 103-119
- (1981)「ムードの形式と意味(3)——取立て助詞について——」『文芸言語研究』第6号 筑波大学文芸・言語学系 53-67
- (1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版(特に3. 2で、2.感情表現——動的事象の描写と性状規定の境界域 139-154を参照、第4章で、第2章コトの類型 1.5 授受の表現 126-138を参照)
- (1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版(特に4. 1、5. 3、5. 6で、3.2.4 基本形が現在の事象を表す場合 99-104を参照)
- (1985)「文法と日本語教育」『応用言語学講座1日本語教育』明治書院 228-249
- 時枝誠記(1941)『国語学原論』岩波書店(特に第Ⅲ部第2章で、第二編各論第三章文法論・へ詞辞の転換及び辞と接尾語の本質的相違 287-310を参照)
- (1950)『古典解釈のための日本文法』至文堂(单元一三 主観客観の総合的表現 58-77)
- (1950)『日本文法口語編』岩波書店
- 中右 実(1979)「モダリティと命題」『英語と日本語と』くろしお出版 223-250
- (1987)「説明理論のためのモダリティの概念」モダリティ研究会レジュメ
- 中川良雄(1989)「授受補助動詞構文——日・英・仏語対照——」『研究論叢』32 京都外国語大学 492-515
- 永野 賢(1951)『現代語の助詞・助動詞——用法と実例——』国立国語研究所報告 3 秀英出版
- 成田徹男(1979)「動詞の意味と格」『人文学報』132 東京都立大学 47-64
- 西尾寅弥(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所報告 4 4 秀英出版
- 仁田義雄(1979)「日本語文の表現類型——主格の人称制限と文末構造のあり方の観点において——」『英語と日本語と』くろしお出版 287-306
- (1980)『語彙論的統語論』Ⅲ 2 対称動詞と半対称動詞と非対称動詞 明治書院 193 - 213
- (1985a)「文の骨組」『応用言語学講座1日本語教育』明治書院 64-86
- (1985b)「主格の優位性——伝達のムードによる主格の人称指定——」『日本語学』第4巻第10号 明治書院 39-52

- (1987)「日本語疑問表現の諸相」『言語学の視界』大学書林 179-202
- (1988)「意志動詞と無意志動詞」『言語』第17巻第5号 大修館書店 34-37
- (1989)「現代日本語文のモダリティの体系と構造」『日本語のモダリティ』くろしお出版 1-56
- (1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- (1992)「判断から発話・伝達へ——伝聞・婉曲の表現を中心に」『日本語教育』77号 日本語教育学会 1-13
- (1998)「日本語文法における形容詞」『言語』第27巻第3号 大修館書店 26-35
- 布村政雄(1984)「文のこと」『宮城教育大学国語国文』第13・14号 8-17
- 野家伸也(1989)「現象学と認知心理学」『哲学』第39号 30-41
- 野田尚史(1987)「日本語の真性モダリティと虚性モダリティ」日本語文法談話会レジュメ
- (1989)「真性モダリティを持たない文」『日本語のモダリティ』くろしお出版 131-157
- 芳賀 綏(1954)「“陳述”とは何もの？」『国語国文』第23巻第4号 京都大学国文学会(服部四郎他編(1978)『日本の言語学第3巻文法I』大修館書店 284-303)
- (1978)『現代日本語の文法』教育出版
- 橋本進吉(1934)「國語法要説」『國語科學講座』明治書院(橋本(1948)所収1~81)
- (1936)「助動詞の分類について」『國語と國文學』第13巻第10號(橋本(1948)所収113~159)
- (1948)『国語法研究』岩波書店
- (1969)『助詞・助動詞の研究』岩波書店
- 畠 弘巳(1980)「文とは何か」『日本語教育』第41号 日本語教育学会 198-208
- 樋上 勲(1979)「主語と主題」『英語と日本語と』くろしお出版 307-322
- 樋口文彦(1995)「形容詞について——状態形容詞と質形容詞」『教育国語』第2期第18号 むぎ書房 2-11
- (1996)「形容詞の分類——状態形容詞と質形容詞」『ことばの科学』7 むぎ書房 39-60
- 藤井 正(1966)「『動詞+ている』の意味」『国語研究室』第5号 東京大学(金田一編(1976)所収97-116)
- 細川英雄(1989)「現代日本語の形容詞分類について」『國語學』第158集 国語学会 左14-26
- 堀川智也(1992)「心理動詞のアスペクト」『北海道大学言語文化部紀要』21 187-202
- 前田富祺(1996)「感性動詞語句とは」『日本語学』第15巻第3号 明治書院 4-9
- 益岡隆志(1980)「複合述語と格指定」『神戸外大論叢』31-2 神戸市立外国語大学 83-95
- (1985)「叙述の類型」『命題の文法』くろしお出版 19-37
- (1987a)『命題の文法—日本語文法序説—』くろしお出版
- (1987b)「モダリティの構造と意味——価値判断のモダリティをめぐる」『日

- 本語学』第6巻第7号 明治書院 30-40
- (1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則(1987)『格助詞』くろしお出版
- (1992)『基礎日本語文法——改訂版——』くろしお出版
- 町田 健(1989)『日本語の時制とアスペクト』アルク
- 松木正恵(1992)「『見ること』と文法研究」『日本語学』第11巻第9号 明治書院 57-71
- 三上 章(1953)『現代語法序説』刀江書院 (くろしお出版復刊(1972))
- (1959)『続・現代語法序説』刀江書院 (くろしお出版復刊(1972))
- (1960)『象は鼻が長い』くろしお出版
- 水谷信子(1985)『話しことばの文法』くろしお出版
- 三宅 鴻(1977)「日本語の一人称代名詞」『ロマンス語研究』第11号 113-120
- 村木新次郎(1998)「名詞と形容詞の境界」『言語』第27巻第3号 大修館書店 44-49
- 森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』明治書院(第IV部第2章述語の表現類型
261-290)
- (1990)「モダリティ」『日本語学』第9巻第10号 明治書院 83-89
- 山内志朗(1988)「普遍記号学とAI」『理想』第640号 52-64
- 山岡政紀(1987)「日本語の『場』と人称の研究」筑波大学博士課程中間論文
- (1988a)「『場』の概念」『言語学論叢』第6・7号 筑波大学一般応用言語学研
究室 41-66
- (1988b)「疑似命令文——日本語モダリティの文法化の一事例」『日本語と日本
文学』第10号 筑波大学国語国文学会 左11-左19
- (1989a)「発話行為論とモダリティ——疑似意向文をめくって」『言語学論叢』
第8号 筑波大学一般応用言語学研究室 16-28
- (1989b)「授受補助動詞と依頼行為」『文藝言語研究・言語篇』第17号 筑波大
学文芸・言語学系 19-33
- (1991)「情報帰属理論とその人称性に関する基礎的考察」『日本語日本文学』創
刊号 創価大学日本語日本文学会 12-23
- (1993)「感情の問いかけと情報帰属理論」『日本語日本文学』第3号 創価大学
日本語日本文学会 38-47
- (1998)「感情表出動詞文の分類と語彙」『日本語日本文学』第8号 創価大学日
本語日本文学会 (1)-(17)
- (1999a)「発話機能と発話内行為」『創価大学人文論集』第11号 創価大学人文
学会 135-154
- (1999b)「感情表出動詞の文法的特徴」『日本語日本文学』第9号 創価大学日
本語日本文学会 (47)-(59)
- (1999c)「属性動詞の語彙と文法的特徴」『国語学』第197集 国語学会 (25)-
(38)

- 山田 純(1985)「文における視点」『日本語学』第4巻第12号 32-40
- 山田孝雄(1936)『日本文法学概論』 宝文館
- 山本和之(1983)「日英語の感情形容詞(1)」『他者の心的・感覚的状態の表出に関する日英語の比較研究』 科学研究費補助金研究報告 1-61
- 湯沢幸吉郎(1929)『室町時代言語の研究』風間書房(1955復刻版)
- (1936)『徳川時代言語の研究』風間書房(1955復刻版)
- 吉永 尚(1997)「心理動詞の意味特性による分類と人称性」日本語教育学会研究集会レゾメ
- 渡邊 實(1953)「叙述と陳述——述語文節の構造」『国語学』第13・14集 国語学会 20-34
- (1971)『国語構文論』塙書房
- AUSTIN, J.L.(1962) How to Do Things with Words: Harvard University Press (邦訳:坂本百大訳(1978)『言語と行為』大修館書店)
- BALLY, Charles(1952) Le langage et la vie. 3rd ed. Droz. (邦訳:小林英夫訳(1974)『言語活動と生活』岩波書店)
- BÜHLER, K.(1934) Sprachtheorie Die Darstellungsfunktion der Sprache: Gustav Fischer Verlag (邦訳:脇坂豊・植木迪子他訳(1983)『言語理論—言語の叙述機能』クロノス)
- BURLING, Robbins(1970) Man's Many Voices: Holt, Rinehart & Winston
- CHOMSKY, N.(1981) Lectures on Government on Binding, Dordrecht: Foris Publications
- DUBOIS, J et al.(1973) Dictionnaire de Linguistique: Librairie Larousse (邦訳:伊藤晃他訳(1980)『ラールス言語学用語辞典』大修館書店)
- FAUCONNIER, Gilles(1984) Espaces Mentaux (邦訳:坂原・水光・田窪・三藤訳(1987)『メンタル・スペース』白水社)
- (1988) "Quantification, Roles, and Domains", in U. Eco et al. ed. Meaning and Mental Representations: Indiana U. P., 61-80
- (1990) "Domains and Connections" (邦訳:坂原茂訳(1990)「領域と結合」『認知科学の発展 Vol.3』講談社サイエンティフィック 1-28)
- FILLMORE, Charles J.(1968) "The Case for Case", in E. Bach & R.T.Harms (eds.) Universals in Linguistic Theory. : Holt, Rinehart & Winston, 1-88
- (1969) "Toward a Modern Theory of Case", in D.A.Reidel & S.A.Schane (eds.) Modern Studies in English: 361-375
- GARFIELD, Jay L.(1987) "Philosophy: Foundations of Cognitive Science", in N.A.Stilling ed. Cognitive Science An Introduction: The MIT press, 305-361
- GRUBER, J.S.(1965) Studies in Lexical Relations. Ph.D.dissertation, MIT.
- HARTMANN, R.R.K. & F.C.STORK(1972) Dictionary of Language and Linguistics: Applied Science Publishers
- HOLENSTEIN, Elmar(1980) Von der Hintergebarkeit der Sprach (邦訳:村田・柴田・佐藤・谷沢訳(1984)『認知と言語』産業図書)
- INOUE, Kazuko(1973)"Self-controllability and Self-changeability", Descriptive and Applied Linguistics VI (I.C.U.), 23-57

- JACKENDOFF, R.(1972) Semantic Interpretation in Generative Grammar. Cambridge, MA: MIT Press
- JACOBSON, R.(1960)“Closing Statement: Linguistics and Poetics”, in Sebeok(ed.), Style in Language: MIT Press
- LEECH, G.(1980) Explorations in Semantics and Pragmatics: John Benjamins B.V (邦訳: 内田種臣・木下裕昭訳『意味論と語用論の現在』理想社)
- (1983) Principles of Pragmatics: Longman (邦訳: 池上嘉彦・河上誓作訳(1987)『語用論』紀伊国屋書店)
- LEISI, E.(1953) Der Wortinhalt (邦訳: 鈴木孝夫訳(1960)『意味と構造』研究社)
- LEVINSON, S.C.(1983) Pragmatics: Cambridge University Press (邦訳: 安井稔・奥田夏子訳(1990)『英語語用論』研究社出版)
- MASUOKA, Takashi(1981)“Semantics of Benefactive Constructions in Japanese”, Descriptive and Applied Linguistics X IV (I.C.U.), 67-78
- MAY, J.L.(1993) Pragmatics An Introduction: Blackwell (邦訳: 澤田治美・高司正夫訳(1996)『ことばは世界とどうかかわるか』ひつじ書房)
- NAKAU, Minoru(1973) Sentential Complementation in Japanese: Chapter VII Complement Predicate Raising: 開拓社 235-293
- OMORI, Ayako(1988) “Exploration into Mental Spaces: Where do Linguistic Expressions Come from?” in English Linguistics 5 日本英語学会 130-149
- OSGOOD, C.E. et al.(1957) The Measurement of Meaning, Univ. of Illinois Press.
- PALMER, F.R.(1986) Mood and Modality: Cambridge University Press
- ROSS, J.R.(1970)“On declarative sentences”, in R.A.Jacobs and P.S.Rosenbaum(eds.)Readings in English Transformational Grammar, Ginn, 222-272
- SEARLE, J.R.(1969) Speech acts: Cambridge University Press (邦訳: 坂本百大・土屋俊訳(1986)『言語行為』勁草書房)
- (1975)“A taxonomy of illocutionary acts”, in K.Gunderson(ed.), Language, Mind, and Knowledge, Minesota Studies in the Philosophy of Science, Vol.VII, University of Minesota Press
- (1976)“The Classification of illocutionary acts”, Language in society, 5, 1-24
- (1977)“A Classification of illocutionary acts”, in A.Rogers, B.Wall, J.P.Murphy(eds.), Proceedings of the Texas Conference on Performatives, Presuppositions, and Implicatures, Center for Applied Linguistics, 27-45
- (1979a)“The Classification of illocutionary acts”, Language in society, 8, 137-151
- (1979b) Expression and Meaning: Cambridge University Press
- SEARLE, J.R. and D.VANDERVEKEN(1985) Foundations of Illocutionary Logic: Cambridge University Press
- UYENO, T.Y.(1971) A Study of Japanese Modality: University of Michigan Ph.D.thesis
- VANDERVEKEN, D.(1990) Meaning and Speech Acts Vol.1: Cambridge University Press (邦訳: 久保進監訳(1997)『意味と発話行為』ひつじ書房)